

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 32, No. 6 ACTA UROLOGICA JAPONICA June 1986

泌尿器科紀要

第32巻 第6号 1986年6月

尿中 γ -GTP 活性から見た CDDP 腎障害の検討	高橋 卓・ほか	789
Cis-diamminedichloroplatinum, Adriamycin, 5-Fluorouracil による進行性尿路上皮癌の治療経験		
一殊に深部浸潤性尿路上皮癌の補助化学療法について	小川 修・ほか	795
High grade の膀胱癌の治療成績	三浦 猛・ほか	803
男子不妊症における常染色体転座	松田 公志・ほか	809
糖尿病性神経因性膀胱と心電図 R-R 間隔変動係数 について	勝見 哲郎・村山 和夫	819
いわゆる Urethral syndrome と 心電図 R-R 間隔変動係数について	勝見 哲郎・村山 和夫	823
経尿道的な前立腺切除術の術中・術後出血に関する検討 —Morphine 又は Buprenorphine の硬膜外腔注入 による術後出血抑制効果—	加藤 弘彰・ほか	827
前立腺癌摘出例の病理学的検討	高橋 康男・ほか	835
前立腺炎症例における N-acetyl- β -glucosaminidase の 変動について	安本 亮二・ほか	841
腎結石及び尿管カテーテル留置に合併した移行上皮癌の2例	山口 千美・ほか	847
腎周囲組織に発生した悪性線維性組織球腫の1例 —泌尿器科領域発生の本邦58例の統計的観察—	澤田 佳久・ほか	853
動脈硬化症に伴う動脈周囲線維化に起因した 両側尿管通過障害の1例	西野 昭夫・ほか	865
Double J Ureteral Stent に晶質物質の析出と 結石形成を見た2症例の経験	中目 康彦・ほか	871
超音波ドプラ法が診断に有用であった睾丸回転症の2例	中尾 昌宏・ほか	877
両側精細胞性睾丸腫瘍の1例	川村 繁美・ほか	881
乳児の急性副睾丸炎の1例	米田 勝紀・ほか	889
経尿道的な手術により妊娠が成立した 精管末端部異常拡張症性無精子症の1例	磯松 幸成・ほか	891
急性前立腺炎及び急性副睾丸炎に対する Cefoperazone の効果	日原 徹・ほか	897
前立腺肥大症の保存的療法 —臨床症状, 尿流量測定による Eviprostat の再評価—	松浦 健・ほか	903
神経因性膀胱に対する塩酸オキシンプチニンの臨床効果	東間 紘・中村倫之助	907

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購 読 要 項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投 稿 規 定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文又は英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す。
(例：山田・ほか：前立腺がん・PSAP)
 - (ii) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内のKey words、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。図・表は誤りのないことを確認のうえ、
編集部員：石神 襄次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
 園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修(主幹)
 3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
 4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。
- トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}, 田中ら^{1,3-10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
 - (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
 - (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
 - (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。